



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

92.11.16 No. 3691

## 「車両の新検査方式」

# 試行、またも延期!

JR東日本は、昨年、「車両の新検査方式」と称して、車両検査体制を解体してしまおうような内容の合理化提案を行い、昨年七月より山手電車区での「試行」を行なっている。

### 一度にわたって「試行」を延期。メドたたず!

当初の計画では、半年間の試行を経て今年三月には本実施に移行するはずであった。ところが、制輪子やパンスリ板など磨耗部分をセンサーで検知し、コンピュータ処理するという、システムの根幹にかかわる部分に誤差やエラーが続出し、試行は今年九月まで延長されることとなった。しかし、今度は六月に「電車総合機能試験装置」の回路が損傷するという事故が発生、九月の本実施移行もまたもや延期された。

当局は、十月下旬になって、十一月九日以降、ようやく「作業体制の中に取り入れた試行」を実施することを明らかにしている。しかし今度は、本実施移行については「結果を判断して」と言うのみで、具体的な期日さえ明らかでないものである。

仕業検査・出区点検の廃止は、結局撤回!

しかも、この間の試行のなかで、仕業検査及び出区点検を廃止するとして当初の提案は、結局撤回され、現行どおりに戻ってしまった。理由は「働きやすさと効率性の観点から再検討した結果」というのだ。当局は、「新検査方式」提案のときも同様の説明をしているのである。合理化提案の時も、逆に合理化提案がうまくいかず、なす崩し的に撤回する時も、このような全く中身の無い同じ「主張」が理由となると、現在のJR東日本の合理化施策のデータメスが如実に現われているといえる。

### 「試行」期間中のデータを明らかにせよ!

また、当局は、度重なる試行の延期にもかかわらず、この間のデータを一切明らかにしようとしていない。闇から闇に事を進めようとするようなことを断じて許すことはできない。問題は、この間われわれが主張してきたように、様々な条件で使用されている車両の検修を全てコンピュータ化することなど、どだい無理だということである。異常時の対応をはじめ、安全の確保にとつて、最終的な決定要因は結局「人」なのだ。この十年間、国鉄-JRは、車両検査の技術者を一切養成していない。このまま行けば、恐るべき事態に至るのは必定である。JRは、「新検査方式」を撤回せよ。



## 職場をカマッポにして小集団!

ある小集団発表会の日、習志野運輸区では、当直助役一名だけを置いて、区長以下管理者すべてが、列車の運行を放り出して小集団発表会に行ってしまうという本末転倒した事態が起きていた。本来、当直も二名がいなければならぬ。しかし、何とそのうち一名も小集団である。現実に、残った当直助役が席を外した時など、職場には点呼をとる人間もいなくなってしまう。もしこの間に事故や車両故障等による輸送混乱が起きたら、一体どうなっていたのか。

一名の当直助役では何ひとつ対応することができなかったのは明らかだ。考えて見れば恐ろしい話である。現場長は、ゴマすり小集団に熱心なあまり、鉄道輸送の本来の使命が何であるのかすらスッポリ抜け落ちてしまっているのだ。そして、毎日のように小集団活動を強要されている労働者が、お互いにこぼし合っているグチや怨嗟の声も、上を見ることがしかならない区長の耳には、当然にも、届きやうがないのである。

年末手当、3・7ヶ月を要末。11月12日、チ一回交渉を行う(要末主旨説明) 貨物は格差回答をするな

11/22 12時~

PKO弾劾! (BKK) 金権腐敗許すな! (指定列車) 千葉10:59